

第35回

全国造園デザインコンクール入選18作品・審査講評紹介

■藤井英一郎委員長（千葉大学園芸学部教授）
第35回全国造園デザインコンクールの応募数は349点で、前回に比べて110点余り減り、そのほとんどは高校からの応募数の減少でした。一方、一般の部の応募は着実に増加してきており、応募者が多様化してきています。コンクールを主催している社団法人日本造園教育研究協議会のご努力と熱意に深く敬意を表します。

方々のデザインは日本の住宅や街区公園、屋上緑化庭などがいま抱える課題に応えるもので、設計のコンセプトや全体のデザインが優れ、そして実習作品では課題にみんなで共同して取り組んだ成果がよく現れていて、いずれも高く評価できるものでした。応募デザイン全体を見ての課題としては、明確な理念や具体性に欠けた街区公園計画が多くあったことです。楽しい思い出や街の風景などしている公園が少ないためかと思います。公園は成熟し回も多く皆さんのすばらしい作品を拝見させていた

す。既にある公園をお年寄りや子供たちが楽しく使うことが、公園に笑い声を生み、夢のあるデザインを生み出す源になるはずです。

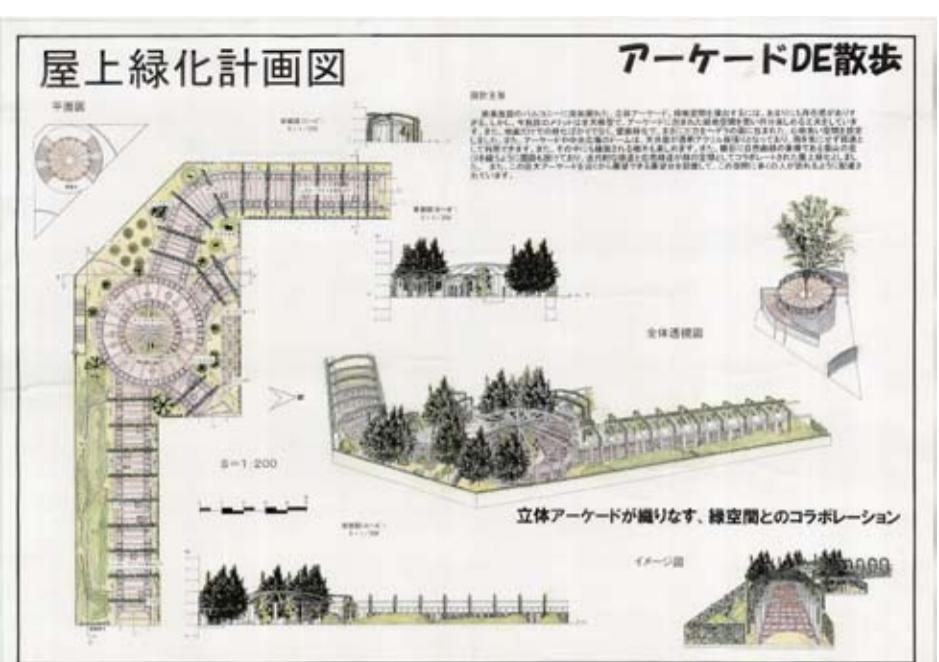
■添野龍雄委員（文部科学省初等中等教育局参事官付教科調査官）
一枚の造園デザインの図面を仕上げるために、図面作成のための知識・技術があることは当然ですが、さらに造園に関する知識・技術に加え日常生活のいろいろな体験・経験の厚みが必要になると思います。今回も多く皆さんのすばらしい作品を拝見させていた

だき、その一つ一つに応募された皆さんの汗と涙を感じることができました。また、今年は高校の先生の応募や、高校時代に応募した方が、就職してからも応募するなど、コンクールの幅の広がりも感じました。

高校生の部は昨年度に比べ学年数はほぼ変わらないものの、応募数は大幅に減少しました。造園を学ぶ皆さんの力量を対外的に試す機会は多くないと思います。今後もより多くの生徒の皆さんが作品を応募されることを期待しております。

また、御指摘いただきましたように、造園の実習は、必ずしも造園専門の授業ではないので、他の授業でも造園の実習を行っているところです。また、工芸や食糧等社会的問題を表現したものも高く評価されています。

■舟引敏明委員（国土交通省通産都市・地域整備局公園緑地・景観課緑地環境室長）
コンセプトが明確で、かつそれを的確に表現できた作品が高い評価を受けました。作図能力、デザイン能力、ディテールに至る配慮まで優れている作品が多く、特に高校部門で精緻な作品が見られました。生徒の努力、そして指導される



国土交通大臣賞 村居忠司 滋賀県立八日市南高等学校（高校生の部・公共的空間部門）



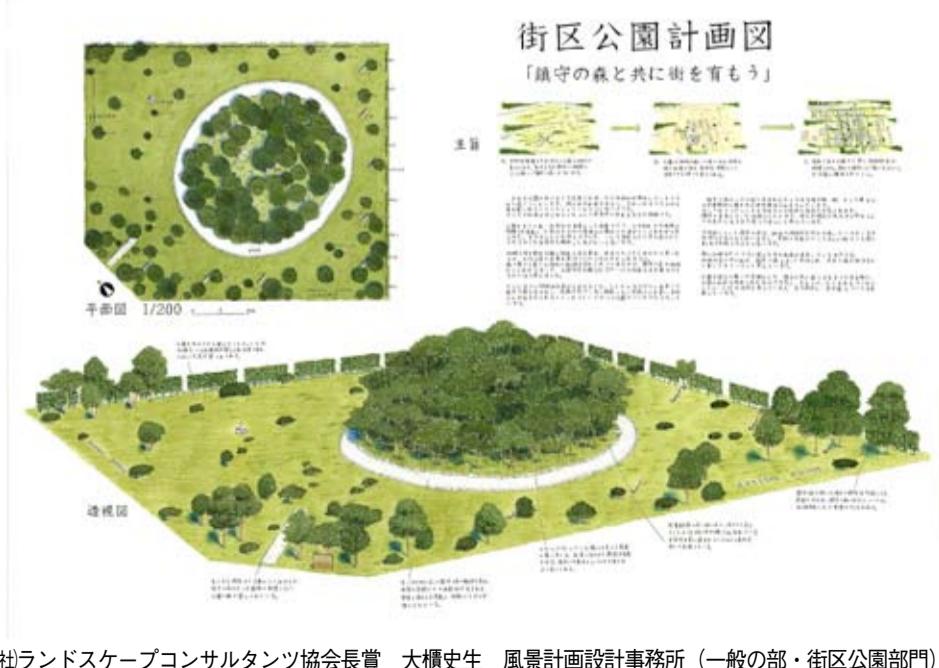
（社）日本造園学会長賞 中島里彩 滋賀県立八日市南高等学校（高校生の部・住宅庭園部門）



（社）日本造園建設業協会長賞 一二三徹也 広島県立庄原実業高等学校（実習作品部門）

全国高等学校造園教育研究協議会長賞 小澤智記
埼玉県立児玉白楊高等学校（実習作品部門）全国高等学校造園教育研究協議会長賞 小林彩実
長野県須坂園芸高等学校（高校生の部・住宅庭園部門）

方や関係各位のご努力に対し、謹んで敬意を表する次第です。今回の（社）日本造園学会長賞は、八日市南高等学校 中島理



（社）ランドスケープコンサルタント協会長賞 大橋史生 風景計画設計事務所（一般の部・街区公園部門）

